

最低レベル「小1まで」の札幌市の制度を拡充して

いま、全国各地の自治体が子どもの医療費を引き下げる助成制度を独自に作っています。

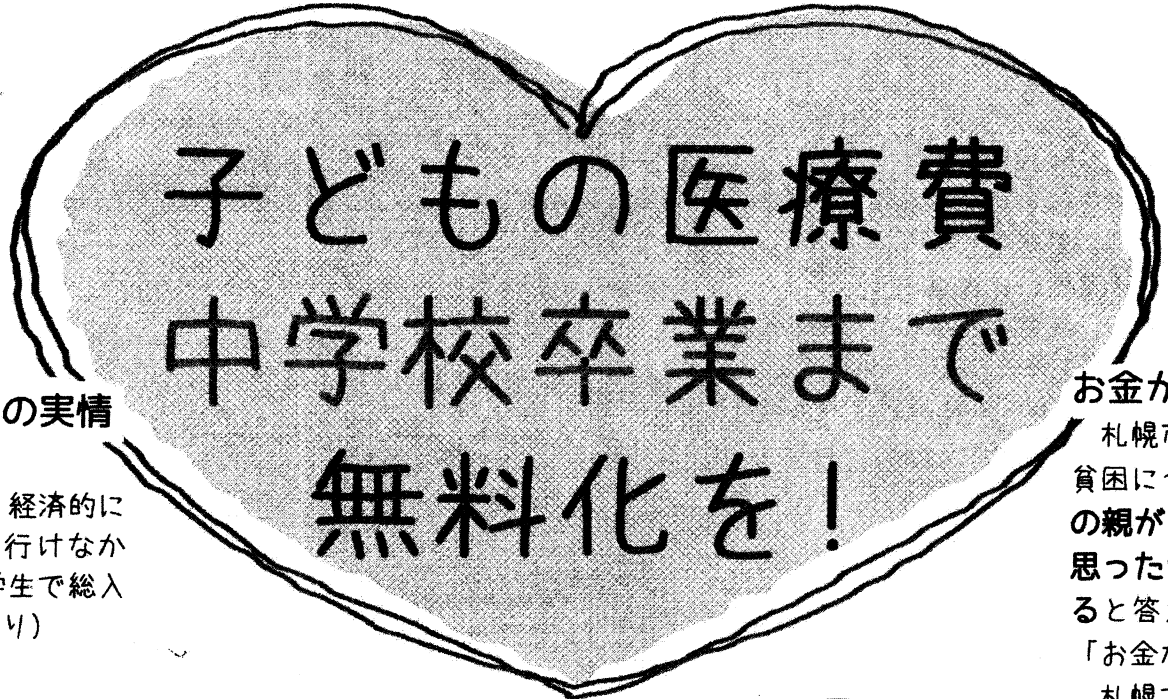
しかし札幌市は、2018年にようやく「通院：小学1年生まで無償」が始まったものの、

全国20の政令市で最低レベルの助成にとどまっています。

格差が広がる北海道では、「6人に1人の子どもが貧困状態」。

札幌の子どもたちの健康が、「お金の有・なし」で左右されないよう、

安心して病院に行ける制度が必要です。



子どもの医療費
中学校卒業まで
無料化を！

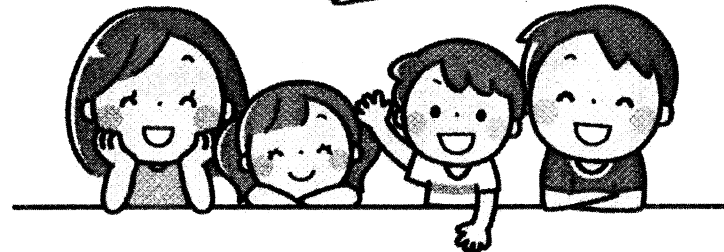
ひどい！札幌の子どもの実情

「中学生で総入れ歯」

虫歯が10本以上あるが、経済的に厳しくてずっと歯科医院に行けなかった小学生。最終的に、中学生で総入れ歯に。(中学校養護教諭より)

「最低限の薬に」

1歳半ころに気管支ぜんそくと診断され、3歳までに10回以上の入院歴。5歳からぜんそく発作による入院は7回。小学校入学後から受診の中断が増えた。「お金がないから、必要最低限の薬にしてほしい」との願いが出される。(Kこども診療所より)



お金がなくて病院に行けない!?

札幌市が2017年に発表した子どもの貧困についての調査結果では、18.4%の親が「病院等を受診した方が良かったが受診させなかった経験」があると答えています。そのうち27.2%が「お金がなかった」と答えています。

札幌では、小学校入学とともに子ども医療費の助成がなくなり、治療が中断されるケースが少なくありません。市内の子どもたちを守るために「せめて中学卒業まで」の声に応じて、市による助成拡大が急務です。

日本共産党